



# SPレコードを通して声の歴史をさぐる

リュウ リンギョク  
劉 麟玉

奈良教育大学准教授

大衆の娯楽には、その時々世相、その土地に暮らす人びとの社会観が反映されている。この共同研究では特に「音楽」に着目し、レコードから発せられる当時の「声」をたよりに、歴史や文化の相互交流をさぐりたい。

## 社交ダンスの時代

二〇〇三年に、台湾では『跳舞時代』というドキュメンタリーが公共テレビ台（公共放送局）によって制作・公開され、話題となった。それは、SPレコードや音楽を通して一九三〇年代の台湾文化と社会状況を描いたものであった。第二次世界大戦後から一九八〇年代までに生まれた新しい世代の台湾人にとっては、祖父母や両親の断片的な思い出によって創られた漠然とした日本時代の台湾像が、『跳舞時代』を通じて、当時の台湾の現実の姿に変わった瞬間であったと考えられる。『跳舞時代』に用いられた幾つかの場面は当時撮影されたものであり、わたしたちの想像を超えた当時の生活ぶりがリアルに描かれていたからである。

そこには手を繋ぐ恋人の姿、タバコを吸う女性、音楽に合わせて踊る若者が映し出されている。その背景に流れる音楽は、当時ヒットした数曲の流行歌である。じつは『跳舞時代』という題名も当時の流行歌の曲名からきている。「跳舞時代（レコード番号802731B）」は一九三三年に日本コロムビアから発売され、それは作曲家陳君玉、作詞者鄧雨賢という名コンビの手によるもので、吹き込みは日本コロムビアの専属歌手「純純」がおこなっている。

## SPレコードに見られる近代の要素

「跳舞時代」をひとつの事例として挙げてみよう。一番の歌詞に次のように書かれている。「和訳」わたしたちは文明の女性である。東西南北に自由に行き来し、束縛されない。（中略）文明の時代にはオープンな社交が大事であることだけ知っている。男女のカップルが列になり、トロットを踊ることはわたしたちの一番の楽しみである。二番以降の歌詞にも「自由」「快樂主義的」などのことが多数盛り込まれている。従来の漢民族の伝統社会では、女性が古い道徳的価値観に束縛され、父母が決めた相手と結婚したり、未婚の女性は男性と付き合うことが禁止されていたりと保守的であった。この歌に描かれた自由奔放に人生を生きる姿やアメリカのフォックストロットを夢中で踊る姿は、伝統的な社会規範への挑戦であり、一種の思想的近代化といえよう。また、音楽の部分でも、伴奏は西洋楽器を用いたコロムビア管弦楽団によるもので、ここにも西洋的・近代的な要素を見ることが出来る。

「跳舞時代」が当時の台湾の都会の世相を反映したものなのか、作詞者の個人的な考えを反映したものなのか、あるいは日本の女性解放運動の影響を受けたものなのかは現時点では明らかではないが、それが当時の台湾人に一定の影響を与え



コロムビア発売「跳舞時代」のレーベル（提供・林太歳<リノタイウエイ>）

植民地台湾におけるSPレコードの研究状況  
一九三三年といえ、台湾が日本の植民地支配（一八九五―一九四五）を受け始めてから三八年も経った時期である。台湾総督府の政策と教育の方針は、台湾人を日本人として教育し、日本語を使用させることであった。ただし、台湾の在来文化は継続的に存在し、漢文（閩南語読みと客家語読み）による私塾教育はしばらく続いた。また、漢文学の創作、漢文新聞紙の発行は一九三〇年代の後半まで許され、「跳舞時代」も漢文で書かれ、閩南語で歌われた。実際、当時発売されたレコードは流行歌だけではなく、漢民族が好んだ伝統音楽もそれを上回る数で吹き込まれ、発売された。人口の八割を占める漢民族が音楽市場の一番の顧客であることをレコード会社もよく理解していた。日本コロムビアだけでなく、ビクター、タイヘイなどの会社も台湾音楽の制作に参入した。そこに植民地政策とはかけ離れた商業思考を垣間見ることが出来る。

たことは十分に考えることである。なぜなら、流行歌に男女の恋心を歌ったものが多いなかで、こうした「新しい」ライフスタイルを謳歌した流行歌も見受けられるからである。このような流行歌としては、他に「珈琲！珈琲！」「啖加啦將」（ハイカラちゃん）などがある。

筆者らの研究が進むにつれ、台湾の流行歌ブーム以前に、上海の流行歌「毛毛雨」や日本の歌謡曲「草津節」の台湾版が発売されていたことがわかってきた。つまり、台湾の流行歌は上海と日本の影響をすでに受けていたということである。しかしながら、その影響がどの程度のものであり、台湾の在来音楽にどのような変容をもたらしたのかという点に関しては、更なる研究が必要である。本研究では今後、音楽学、文学、マスメディア論、社会学といった多様な視点を、レコード音楽に見られる近代の要素を明らかにし、日本のレコード産業がもたらした異なる地域間の音楽文化の交差と変容の実態を明確にしていく予定である。

### 共同研究

「音盤を通してみる声の近代——台湾・上海・日本で発売されたレコードの比較研究を中心に」  
代表・劉麟玉  
2011年10月〜2015年3月



台湾で発売された日本のレコード会社のレーベル（提供・林太歳）  
上：コロムビア  
左上：ビクター  
左下：タイヘイ

